

拓

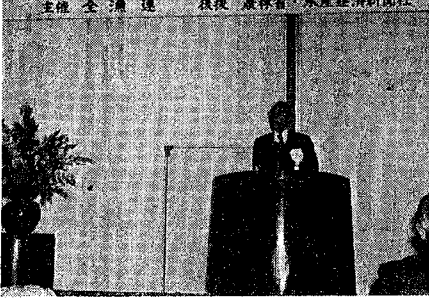


3月号
No. 258

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産改良普及協会
〒652
神戸市兵庫区中ノ島2の1
会長理事 山田岸松
TEL 681-6954~7
一部 10円

全国大会開催される

第24回全国漁村青年婦人活動美



全国大会で挨拶する全漁連会長(中央)

春一番のあけくろくなか、恒例の全国漁協婦人部活動実績発表大会および農業参加全国漁村青年婦人活動実績発表大会が、去る二月二十八・二十九三日にわたって、東京・日本都市センターにおいて盛大に開催された。この大会は、各地方大会で推せんされた漁協婦人部(二十六組織)、漁村青年グループ(三十七組織)が各々の活動実績を発表し、知識の相互交流と活動意欲の向上を図るとともに、活動成果を全国に普及し漁業の振興に寄与しようとするもので、今年で二十四回(婦人部発表大会は五回)を迎えた。本県からは、婦人部大会に洲本漁協婦人部、青年大会には岩見漁協友水会が参加し、農林中金賞・水産庁長官賞・全漁連会長賞を受賞した。

惜しくも農林大臣賞を逸す

岩見漁協友水会

春一番のあけくろくなか、恒例の全国漁協婦人部活動実績発表大会および農業参加全国漁村青年婦人活動実績発表大会が、去る二月二十八・二十九三日にわたって、東京・日本都市センターにおいて盛大に開催された。この大会は、各地方大会で推せんされた漁協婦人部(二十六組織)、漁村青年グループ(三十七組織)が各々の活動実績を発表し、知識の相互交流と活動意欲の向上を図るとともに、活動成果を全国に普及し漁業の振興に寄与しようとするもので、今年で二十四回(婦人部発表大会は五回)を迎えた。本県からは、婦人部大会に洲本漁協婦人部、青年大会には岩見漁協友水会が参加し、農林中金賞・水産庁長官賞・全漁連会長賞を受賞した。

沿岸漁場の有効利用をめざして

二海里新時代への幕開けとともに、わが国漁業は予想をはるかに上回る激しい現実を直視しており、今後、沿岸漁場の資源の管理増大を柱として日本列島周辺漁場の抜本的見直しを基

農林中金理事長賞に輝く

洲本漁協婦人部

漁家の健康管理

第五回全国婦人部活動実績発表大会が去る二月二日、三日から三日一日の二日間、わたって東京において「元生活改善及び健康管理に関する」と「組織に関する」と「地域環境の整備に関する」との三分科会に分れて行なわれた。本県からは洲本漁協婦人部の持井純子(十一)が「漁家の健康管理」として、農林中金理事長賞を受賞した。発表全文は4面。

本日の大会は、漁業(十一)・増・養殖(十七)経営(十一)が参加したが、四十分の百海里時代をむかえた現状



発表に熱心な持井純子さん



瀬戸内海環境保全推進大会(昭52年)

は持ちかたチャンを中心とした笑いの絶えない家庭作りを心掛けることが、一家の健康につながるが、カプチャンにとつては毎日色々と問題があることと思うが、よくよく神経を使うことが健康にとって一番悪い、少々のも気分的にはのんびりや対話を少なくとも一日一回た。

瀬戸内海環境保全臨時措置法は、瀬戸内海を世界に類のない景勝地であり国民にとって貴重な漁業資源を国民が享受し、後代に継承すべきものと位置づけ、その環境の保全に際して諸種の施策を政府に義務づけておき、この施行を通じて産業系排水にかかるCODの半減等大きな役割を果たしてきたことは評価されるべき事項である。

瀬戸内海環境保全臨時措置法は、瀬戸内海を世界に類のない景勝地であり国民にとって貴重な漁業資源を国民が享受し、後代に継承すべきものと位置づけ、その環境の保全に際して諸種の施策を政府に義務づけておき、この施行を通じて産業系排水にかかるCODの半減等大きな役割を果たしてきたことは評価されるべき事項である。

瀬戸内海環境保全臨時措置法は、瀬戸内海を世界に類のない景勝地であり国民にとって貴重な漁業資源を国民が享受し、後代に継承すべきものと位置づけ、その環境の保全に際して諸種の施策を政府に義務づけておき、この施行を通じて産業系排水にかかるCODの半減等大きな役割を果たしてきたことは評価されるべき事項である。

要望書

これにより三月下旬に三月上旬を成立運動の正念場として全漁連、関係団体が波状運動を展開した。本会も本県漁協システムの窓口として次の要望項目を以て三月一日、二日、山田会長をはじめ副会長、漁政対策委員、事務局長等八名を以て国会議員、関係省庁に対し強力な中央陳情を実施、その後においても必要に応じて成立立運動を展開を継続している次第である。

要望書

これにより三月下旬に三月上旬を成立運動の正念場として全漁連、関係団体が波状運動を展開した。本会も本県漁協システムの窓口として次の要望項目を以て三月一日、二日、山田会長をはじめ副会長、漁政対策委員、事務局長等八名を以て国会議員、関係省庁に対し強力な中央陳情を実施、その後においても必要に応じて成立立運動を展開を継続している次第である。

要望書

これにより三月下旬に三月上旬を成立運動の正念場として全漁連、関係団体が波状運動を展開した。本会も本県漁協システムの窓口として次の要望項目を以て三月一日、二日、山田会長をはじめ副会長、漁政対策委員、事務局長等八名を以て国会議員、関係省庁に対し強力な中央陳情を実施、その後においても必要に応じて成立立運動を展開を継続している次第である。

要望書

これにより三月下旬に三月上旬を成立運動の正念場として全漁連、関係団体が波状運動を展開した。本会も本県漁協システムの窓口として次の要望項目を以て三月一日、二日、山田会長をはじめ副会長、漁政対策委員、事務局長等八名を以て国会議員、関係省庁に対し強力な中央陳情を実施、その後においても必要に応じて成立立運動を展開を継続している次第である。

12月の漁況と海況

●海況

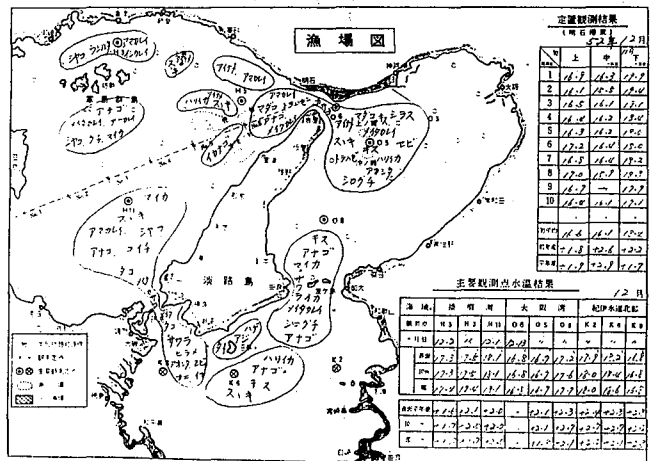
11月以降冬の訪れがおそく近年にない暖冬年を経過している。
 ※大阪湾(淡路島側中部)……北部では、各層16.7℃を示し平年比較で+2.0℃内外高目、中・南部17.3~17.7℃を示し+2.1~2.7℃高目で全域にわたって前月に引続き大巾な高水温分布を形成している。
 ※播磨灘(上旬)……東部では各層17.4℃で+1.7℃、北西部各層17.5℃で+2.0℃内外南部各層18.1℃で+2.0℃と、それぞれ高目を示し大阪湾同様前月に引続き全域にわたって高水温分布を形成している。
 ※紀伊水道北部(中旬)……東部では表、中層18.0℃、底層19.0℃で+2.2℃~+2.7℃中部では各層18.4℃内外で+2.1℃~+2.7℃、西部では各層16.8℃で+2.3℃それぞれ高目で東高・西低型を示しているもの前月に引続き全域にわたって高水温分布を形成している。

●各地

(記以下は1日1隻当りの漁獲量@は平均単価、何隻は操業隻数)
 ※明石浦……小型底曳網マダコ15キロ@1,250、アマカレイ7キロ@2,100@500、メイトカレイ8キロ@2,000@800、ハリイカ3キロ@1,750、オコゼ2キロ@5,000、アナゴ6キロ@1,500、トラハゼ15キロ@225、エビ7キロ@1,500、20隻(大阪湾北西部夜縁曳)。カサゴ45キロ@2,000@200、アイナメ5キロ@800、ウマズラハギ25キロ@1,500@500、マダコ4キロ@1,400、メイトカレイ、アマカレイ3キロ@1,250、5隻(明石海峽曳)。マダコ15キロ@1,250、アマカレイ10キロ@500~1,200、メイトカレイ10キロ@800~2,000、オコゼ4キロ@5,000、イイダコ50キロ@子持1,000ナン400アナゴ10キロ@1,250、ウマズラハギ10キロ@500~1,500、30隻。曳網ススキ25キロ@750、50隻。延縄アナゴ、100キロ@9002隻。ブンチン漕イシカレイ15キロ@2,100@600、イイダコ15キロ@650、7隻。
 ※若屋……小型底曳網アナゴ17キロ@800、ススキ6キロ@800、15隻。カサゴ55キロ@800、アイナメ4キロ@1,000、5隻。船曳網カタクチシラス50~200キロ@640~800、5統。本釣カサゴ4キロ@2,000、マダコ5キロ@900、ススキ20キロ@1,200、延縄アナゴ@115キロ@1,700、@22キロ@200、20隻。刺網ススキ25キロ@1,700、10隻。突棒ナマコ(赤)17キロ@1,500(青)7キロ@500、10隻。
 ※由良……小型底曳網キス5キロ@1,200、アナゴ12キロ@1,000、イカ3キロ@2,000マダコ10キロ@1,250、その他25キロ@500、80隻。各刺網ススキ22キロ@1,300、10隻。アマカレイ7キロ@1,700、メイトカレイ5キロ@2,200、その他10キロ@700、25隻。各延縄ススキ14キロ@1,400、ハゼ13キロ@650、5隻。カサゴ13キロ@1,150、グチ15キロ@600、3隻。アナゴ52キロ@1,200、3隻。各一本釣ハマチ10キロ@1,600、30隻。小タイ3キロ@5,250、20隻。マダコ10キロ@1,250、40隻。タコ産卵45キロ@1,300、1隻。突棒アワビ5キロ@2,600、サザエ10キロ@800、ナマコ12キロ@980、10隻。
 ※沼島……小型底曳網ハリイカ11キロ@600~1,000、アナゴ13キロ@500、キス7キロ@500、ススキ8キロ@600、40隻。各一本釣マイダイ2~18キロ@5,000@4,200@3,200@65隻。アジ10キロ@1,200、2隻。イシダイ10キロ@2,800@2,200@1,500、5隻。延縄アナゴ25キロ@7003隻。磯刺網ハリイカ2キロ@1,200、ウマズラハギ8キロ@30018隻。突棒アワビ4キロ@3,000、マダコ3キロ@1,000、サザエ6キロ@800、ナマコ(赤)8キロ@1,200(青)2キロ@500、8隻。
 ※福良……小型底曳網メイトカレイ20キロ@2,500、青シタ3キロ@2,200、ヒラメ5キロ@4,500、カサゴ4キロ@1,500、トラハゼ5キロ@250、ハリイカ10キロ@680、マダコ4キロ@1,200、オコゼ1キロ@5,200、その他19キロ@800、22隻。エビ漕網シラスエビ4キロ@4,200、カワツエビ1キロ@1,800、小エビ(新)1キロ@400(死)12キロ@150、ガザミ2キロ@1,700、アカシタ3キロ@1,000、その他8キロ@700、20隻。曳網サワラ7キロ@1,800、サゴシ25キロ@1,000、エン2キロ@1,500、110隻。各一本釣マダコ7キロ@1,200、20隻。ウルメイワシ15キロ@140、2隻。キス2キロ@1,400、2隻。ハリイカ7キロ@750、5隻。各延縄トラフグ7キロ@7,350@4キロ@4,900、7隻。アナゴ9キロ@500、ハモ3キロ@1,000、2隻。磯刺網メイトカレイ10キロ@2,000、アイナメ3キロ@800、マダコ2キロ@1,200、カサゴ5キロ@1,000、突棒アワビ7キロ@2,200、サザエ4キロ@800、マダコ5キロ@1,200、セトガイ15キロ@500、ナマコ(赤)5キロ@1,200(青)15キロ@500、合計22隻。ウニ40箱@800、5隻。

●本月的特記事項

※オコゼ……大阪湾北西部、播磨灘東部海域では例年桁輿網で1日1隻当り3~8キロの漁獲を示し冬の網物用として大いに珍重され昨年は1キロ当り4,000~5,500でトラフグに次ぐ高値を示し量的には少ないものの漁獲金額では上位を占めたが本年は漁獲量が少ない。
 ※アナゴ……大阪湾中部、播磨灘東部では延縄1日1隻当り@100~130キロ@15~30キロの極めて好漁を示しているのに反し淡路南部海域(紀伊水道)では全く不振(1日1隻10~40キロ)で対象的である。
 ※サワラ……本年は春、秋ともに大阪湾、播磨灘とも近年にない大豊漁で本月に入っても例年みられない鴨門海峡南部海域で落ちサワラの好漁が続く曳網釣の中心地である福良漁協では実に1日の平均出漁隻数110隻を数えている。



ワカメ

種糸培養のすすめ

水産試験場 丹下 勝 義

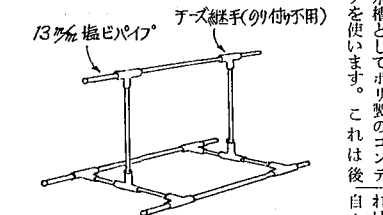
県下でワカメ養殖が始まってから久しく、その開いていくと技術も進歩してきています。多くの養殖業者はその種糸を、水産試験場や民間の種苗屋さんから買求めているのが現状です。ところがこのような種糸は、ある所で非常に成績のある所で生産が選れたり収穫が少なかったりすることをよく体験します。これは一斉配布のためある海域にとっっては沖出しのタリ、培養した種糸がその海域の条件に合わなかったり、培養した種糸がその海域の条件に合わなかったりすることに起因するからです。



反対に切れこみが大きく茎も長いものが多いといったような特徴があります。同種糸を育てる時の種糸は、その地方で育っているものの中から選別淘汰したものが一番良いことになりま

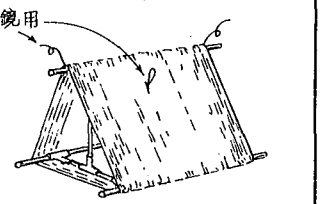
県内でも鴨門系と垂水系とでも大きな形の違がみられます。市場における価値もその地方によって異なりま。このような形の違いは生育環境によるもので異質の系統のものは育ちにくいということになります。以上のようなことからワカメ養殖をする時の種糸は、その地方で育っているものの中から選別淘汰したものが一番良いことになりま

3・4月の作業

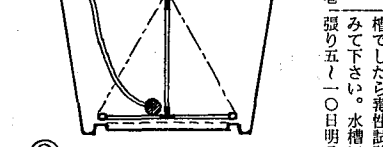


① 系枠(水道用塩ビパイプ製)

従来の系枠(採苗器)をお持ちの方はこれの掃除とお水槽の準備を始めて下さい。シートを敷いた木水槽の場合は破れがないか点検しましょう。シートを張り替えてはポリシートを使いましょう。これは使用中に汚物の溶出する危険性があります。これから新たに始めようとする方のために手近かに入手出来る材料で培養する方法を紹介します。先ず



② 系枠に種糸を巻いたところ (糸は接するように巻く)



③ ポリコンテナに流めたところ

(一)五、六位が適当と思われすが、太目の糸を使用すると種糸が乾きます。巻き上げが終了した今年度はケバ焼きです。ケバ焼きは新聞紙を丸めてたいたまつのよきに燃やし糸枠の表面を素早く焼いて下さい。さらに糊加工が出来れば心がけておいて下さい。次号においては種付けを中心にして書いてみます。(つづく)

市販の大型ポリコンテナは60×43×35cm位であるがこれに入る系枠では300m程の種糸が作れる。

アカガイ 天然採苗 試験について

岩見漁協 友水会

近年、沿岸漁業資源の減少は全国的なものであるが、内海に而した当地域では一層深刻であり、漁業経営が困難となっている。

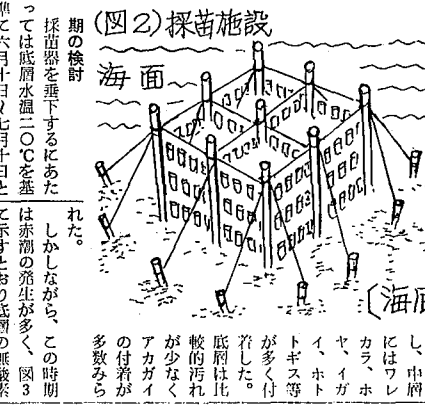
このため、広く組織的研究活動として播種地区漁青連で検討協議を重ね漁場環境条件と過去の実績、市場性、経済性等を考慮した結果、アカガイの増殖により漁場の立体的利用を図り、漁業経営を向上させるため、漁青連の重点事業として私連グループ他三地区でこの事業を実施することとした。

活動の状況および成果

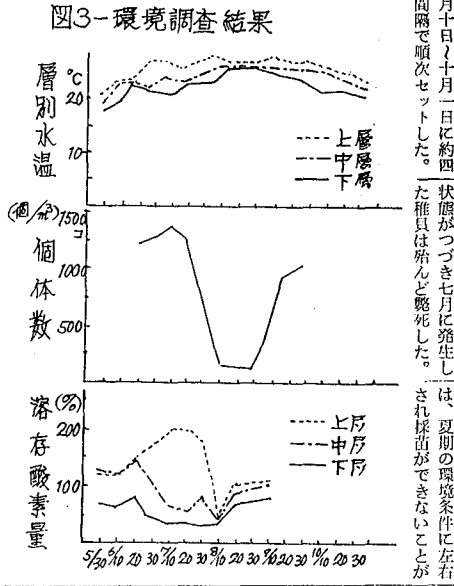
- この事業を実施するにあたり、漁青連では水試の資料でアカガイ浮游幼生分布調査、漁業者の稚貝採捕場所、天然大群発生場所、アカガイ漁獲場所等を検討した結果、本年度事業を実施するにあたり次の項目を設定した。
- (1) 採苗場所の選定
 - (2) 採苗施設の構造
 - (3) 採苗時期の検討
 - (4) 環境調査
 - (5) 二枚貝の浮游幼生調査
 - (6) 稚貝の成長調査
 - (7) 稚貝の成長調査



協同作業にも熱が入る友水会員



(図2) 採苗施設

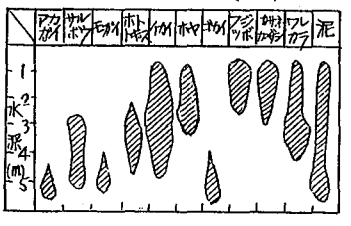


この時期の浮游幼生の出現数と水温との関係は図3に示すとおりで、遊動幼生の最多出現期は底層水温が20°Cを不す六月中旬と七月初旬および九月下旬と七月初旬と一致している。

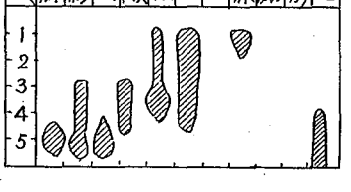
(4) 付着生物調査

春秋一約四〇日垂下した後の付着状況を調べた結果は図4に示すとおりで、上層にはフジツボ、ホヤ、ワケイ、ホトトギスが付着し、中層にはアカガイ、サルボウ、イガウ、モガイが付着した。その結果、表1に示すように採苗器三二〇個に約三二、〇〇〇個の稚貝が得られた。

図4-採苗器における水深別付着生物



垂下日9月14日 調査日10月22日



波及効果

以上の試験結果から、アカガイの天然採苗方法に目途がつき、この方法により兵庫県一円で大規模なアカガイ天然採苗を実施することができ漁業者の実績が大きく上がっている。

秋期一約四〇日垂下した後の付着状況を調べた結果は図4に示すとおりで、上層にはフジツボ、ホヤ、ワケイ、ホトトギスが付着し、中層にはアカガイ、サルボウ、イガウ、モガイが付着した。その結果、表1に示すように採苗器三二〇個に約三二、〇〇〇個の稚貝が得られた。

(5) 稚貝の成長

秋期採苗で得られた付着稚貝を用いて海底養殖を試みた。この時期はヒト

図6-秋期付着稚貝(アカガイ)の時期別成長曲線

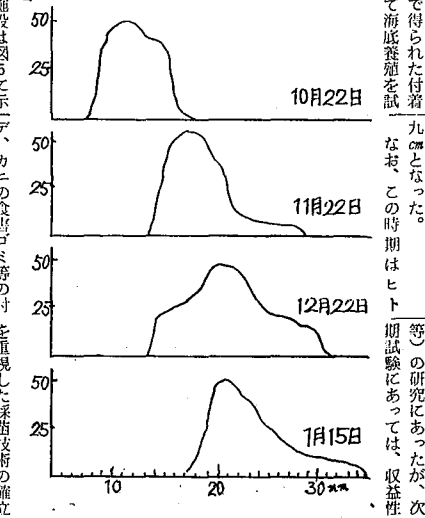


表1 採苗器1個あたりの付着稚貝数 (但し、ムラサキガイ、ホトトギスは除く)

Sp	アカガイ	サルボウ	その他	計
1.0m	50	130	35	215
0.5	150	220	15	385
平均	100	175	25	300

Dep とは海底よりの高さ

みた。養殖施設は図5に示すように、カニの食害等の付着を防止し、稚貝の成長を促進させるため、水深五mが適正水域であり、採苗施設を一層多く稚貝の生産性は非常に高いと見られる。また、この水域に集約的に採苗を実施し、地域別に成長度を確認し、技術の確立を必要とする。

(2) 採苗器の構造は環境条件がよくなく十分な成果が得られなかったため、これに対する対策を考案ねばならない。

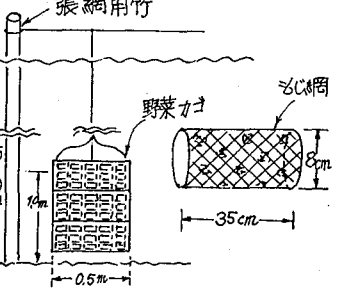
(3) 採苗器の選定にあたっては目詰まり等をおこさない材質、目合い等の検討が必要である。

(4) アカガイ資源の減少に對処するため、親貝の保護・育成場をつくらねばならない。

今後の計画と問題点

- (1) 現段階の試験は採苗技術(採苗時期、場所、施設等)の研究にあつたが、次期試験にあつては、収益性の確立を図る。
- (2) 採苗場と育苗場の漁場環境を検討し、天然採苗技術の確立を図る。
- (3) 以上の点を研究することにより、アカガイ天然採苗を安定したものとしてゆきたい。

図5-アカガイ海底養殖施設



信頼された技術から生れた 信頼ある性能品!

株式会社 ゼノサイタイ

池田市豊島南2丁目176-1 TEL (0727)62-7001

みんなの力で 海を守ろう

